

第 14 回資源管理手法検討部会の結果について

令和 5 年 6 月 12 日
水 産 政 策 審 議 会
資 源 管 理 分 科 会
資源管理手法検討部会

令和 5 年 5 月 22 日（月）に開催された第 14 回資源管理手法検討部会で整理された論点及び意見は次のとおり。

1. アカガレイ日本海系群

● 漁獲等報告の収集について

- 各市場での計量や換算方法等について調査し、正確な漁獲量を把握する体制の整備が必要。

● 資源評価について

- 一部の海域については、資源評価と現場感覚に乖離があることから、評価に使用した基本情報や仮定条件、情報の収集方法並びに分析方法等について丁寧な説明が必要。

● 資源管理について

- 漁業経営や地域経済を念頭に入れた、中長期的に安定した T A C が設定されるシナリオを採択すべき。
- 漁業者間に不公平感が生じないように大臣管理区分と知事管理区分で一体的に管理できる手法が望ましい。
- 底びき網漁業は選択的な漁獲ができないことから、混獲の扱いについて、国として方向性を示した上で管理の議論に入るべき。
- T A C の配分について、これまでの資源管理の取組や近年の漁獲量の変動を考慮した、適切な配分方法を検討すべき。
- T A C 管理へのステップアップについては、対象魚種の特性や利用実態等による様々な課題も踏まえて実行すべき。
- この資源に T A C 管理を導入する必要性について説明してほしい。

● S H 会合で特に説明すべき重要事項について

- 漁業者が納得して資源管理に取り組めるよう、使用した基本情報や仮定条件等を含め資源評価の詳細と数量管理の必要性について分かりやすく説明してほしい。
- 選択的な漁獲ができない漁法における T A C 管理のやり方、漁獲量が大きく変化した場合の対応等、実態に応じた管理手法について説明してほしい。

2. ベニズワイガニ日本海系群

● 漁獲等報告の収集について

- 各市場での計量や換算方法等について調査し、正確な漁獲量を把握する体制の整備が必要。

● 資源評価について

- 日韓暫定水域における外国漁船の漁獲量が不明確な中で、2系ルールの適用を含め資源評価の妥当性について、説明すべき。
- 知事許可水域においては海域毎に自主的な資源管理が行われており、資源評価と海域毎の状況が必ずしも一致するものではないと考えられるため、実際に操業する海域の漁業者の意見を十分考慮すべき。

● 資源管理について

- 大臣許可水域と知事許可水域では漁業実態や資源状況が異なるため、数量管理についても分けて検討すべき。
- T A Cが大幅に減少した場合、漁業者だけでなく、水産加工業等の地域水産業に多大な影響を及ぼすことが想定されるため、漁業者、水産加工業関係者等の意見を反映させた無理のないT A Cを設定すべき。
- T A Cの配分数量は、過去の漁獲実績をもとに決めるのではなく、各海域の資源量や自主的な資源管理の取組を考慮すべき。
- 日韓暫定水域における外国漁船（特に韓国）の本資源の利用状況について説明してほしい。

● S H会合で特に説明すべき重要事項について

- 資源評価について漁業者が理解しやすいよう、資源の分布や成長等の生態的な知見や地域ごとの利用実態を踏まえ、どのようなデータを用いてどのように評価したのか丁寧に説明してほしい。
- 地域水産業に多大な影響を及ぼすことが想定されるため、流通、加工関係者等の意見を十分に反映させるべき。
- 日韓暫定水域における操業秩序の構築に向けた対応について説明すべき。

3. イカナゴ瀬戸内海東部系群

● 漁獲等報告の収集について

- 知事許可漁業者は漁獲量を収集する体制が整っているものの、四半期毎の報告となっている地域があり、報告体制の改善について検討すべき。
- 他県の漁業者が自県知事による許可に基づき自県海域で操業する場合、電子的な報告体制の整備状況によっては、県間で報告義務の履行に差が生じる恐れがあるため、不公平とならない方策を検討すべき。

● 資源評価について

- 伊勢・三河湾の状況も含め、イカナゴ資源の減少の原因究明を行うべき。
- 最近では資源水準のベースラインが変わっていることを踏まえ、過去を複数の期間に分けて、期間別に評価するような方法を検討すべき。
- 他魚種の捕食や環境要因を考慮した資源評価を進めるべき。
- 使用可能なデータが少なく、2系ルールを適用していることから資源評価の精度は高いとは言えず、管理目標等の妥当性についてはしっかりと説明する必要がある。

● **資源管理について**

- 卓越年級群が発生した場合に弾力的に対応できるようなルール作りをすべき。
- 数量管理において、フルセとシンコを一括して管理することの妥当性について検討すべき。
- 複数の漁獲シナリオを図示した上で、漁業者に説明すべき。
- 管理の内容の検討に当たっては、加工業者の意見も聴くべき。

● **S H会合で特に説明すべき重要事項について**

- データが不足している2系資源で将来予測が示されていないにも関わらず、数量管理を導入する必要性やメリットを説明すべき。
- 今後の漁獲量と数量管理導入後に見込まれる漁獲量の推移を示してほしい。
- 悪化した環境要因の改善策も併せて検討すべき。
- 経営面での支援策を提示する必要がある。

(以 上)